

令和8年度

「運営に関する計画」

大阪市立北中島小学校

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の子どもたちは、明るく元気な子が多く、これまでの取組の中で、自ら進んで挨拶をする子どもが増えている。永年地域の見守り隊をしていただいている方々から大きく称賛されており、子どもたちの元気な挨拶が地域の方々の幸福感につながっている。また、教職員が日々の学校生活での子どもとのかかわりを大切にしており、係・当番活動、クラブ活動、委員会活動など子ども同士のかかわりも大切にする中で、自主的・主体的に行動する子どもたちをはぐくんできている。なかよし班活動（縦割り班活動）では、上級生が下級生の面倒を見ることが定着しており、異学年の子ども同士のつながりも深まりをみせている。

昨年度の創立150周年記念・新校舎竣工記念式典において、最高学年である6年生の素晴らしい姿を見たことで、上級生のあるべき姿を認識したり意識したりする子どもたちも増えてきている。

これまで本校の子どもたちは、自己肯定感の低さが課題とされてきた。この点については地域の方々の心配も大きい。その課題解消に向け、令和5年度より、子どもたちに寄り添い、子どもたちの頑張り、取り組む姿勢、成果等をしっかりほめることを大切にしてきた。令和6年度からは、これまでも行ってきたことではあるが、成果は出なくとも一生懸命頑張る姿、熱心に取り組んでいる姿をしっかり認めることをあらためて確認し、子どもたちの自己肯定感と自己有用感の向上をめざし、教職員みんなで同じ方向性をもって子どもたちにかかわることとしてきた。その結果、3年間の取り組みから、改善の兆しを感じられるようになった。

まず、大阪市学力経年調査児童質問紙の「自分にはよいところがあると思いますか」の質問項目について、令和2年度からの経年比較から、肯定的に回答する子どもの割合が上昇していることが分かる。また、最も否定的に回答する子どもの割合も減少してきている。自己肯定感の高まりが感じられる。（<表1>参照）

<表1> 児童質問紙「自分にはよいところがあると思いますか」

R2 肯定的			R3 肯定的			R4 肯定的			R5 肯定的			R6 肯定的			R7 肯定的		
学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比
67.2	70.1	95.9%	63.3	73.9	85.8%	70.3	76.4	92.0%	78.8	78.5	100.3%	76.8	80.0	96.0%	81.3	82.0	99.2%
R2 最も否定的			R3 最も否定的			R4 最も否定的			R5 最も否定的			R6 最も否定的			R7 最も否定的		
学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比
17.4	11.6	150.6%	16.7	11.2	149.3%	15.5	9.7	159.4%	8.2	8.5	96.6%	9.2	8.0	115.0%	5.4	6.9	78.9%

自己有用感については、児童質問紙の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問項目で捉えている。肯定的に回答する子どもの割合が、令和6年度より大阪市平均よりも高くなっており、回答の数値も非常に高い。（<表2>参照）

<表2> 児童質問紙「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

R2 肯定的			R3 肯定的			R4 肯定的			R5 肯定的			R6 肯定的			R7 肯定的		
学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比
93.3	94.0	99.3%	92.3	94.1	98.1%	90.2	94.1	95.8%	91.5	94.5	96.9%	97.3	95.0	102.4%	96.0	95.1	100.9%

さらには、児童質問紙の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問項目においても、肯定的に回答する子どもの割合の数値はあがっており、令和6年度より大阪市平均を超えることとなっている（<表3>参照）。この質問項目においては、いつの日か肯定的な回答が100%になることをめざしたい。

<表3> 児童質問紙「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

R2 肯定的			R3 肯定的			R4 肯定的			R5 肯定的			R6 肯定的			R7 肯定的		
学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比
						94.6	95.1	99.4%	94.6	95.3	99.3%	96.6	95.8	100.8%	98.2	96.0	102.2%

これらのことから、令和5年度より課題として捉え、その改善に向け教職員みんなで力を合わせ取り組んだことが、子どもたちの変容を生み、成果となってあらわれてきていることが分かる。

児童質問紙における大阪市平均との比較を経年的に見ると…。

- 令和2年度 19項目中 8項目で大阪市平均を上回る。
令和7年度 19項目中13項目で大阪市平均を上回る。
- 令和5年度 25項目中12項目で大阪市平均を上回る。
令和7年度 25項目中16項目で大阪市平均を上回る。
- 令和6年度 35項目中15項目で大阪市平均を上回る。
令和7年度 35項目中20項目で大阪市平均を上回る。

一方で、令和2年度より6年間、一度も大阪市平均を上回ることができていないものとして、「将来の夢や目標をもっていますか」の質問項目があげられる（<表4>参照）。夢をもつことは簡単なことではないだろうし、必ずしも小学生段階でもっていなければならないわけではないが、目標を定めたりかなえたい夢をもったりできるような取り組み、そんなきっかけを与えることができるような取り組みの構築をめざしたい。

<表4> 児童質問紙「将来の夢や目標をもっていますか」

R2 肯定的			R3 肯定的			R4 肯定的			R5 肯定的			R6 肯定的			R7 肯定的		
学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比	学校	大阪市	対市比
78.5	81.5	96.3%	80.0	81.5	98.0%	74.1	82.4	89.9%	78.4	83.4	94.0%	74.6	84.1	88.8%	77.6	83.2	93.3%

学習面では、普段の学習において前向きに努力する姿がたくさん見られている。大阪市学力経年調査児童質問紙でも、社会科・算数科・理科においては、「好きですか」「よく分かりますか」の質問項目について、肯定的に回答する子どもの割合は、大阪市平均を3年連続で超えることとなっている。今年度は外国語（英語）活動においても「好きですか」「よく分かりますか」の項目で、国語科の「よく分かりますか」の項目でも、大阪市平均を超えることとなった。また、経年調査の標準化得点においても前年度を上回ったり、どの学年も4教科（5教科）の標準化得点の平均は100を上回ったりしている（別紙②参照）。これらは、教員が日々の学習活動を大切にするとともに、校内研究に真摯に向き合いお互いに高め合いながら取り組んでいるからである。子どもたちの学力向上に向け、常に自己研鑽に励みながら取り組んでいる証と言える。

令和7年度運営に関する計画の最終評価においても、年度目標の達成に向けた具体的な取組がしっかり行われ、それぞれの指標を達成していたことが確認された。これまで、読書面や運動面、基本的な生活習慣にかかわる睡眠についての課題があげられていたが、令和7年度に取り組みの活性化を進め、それぞれに改善が図られている。特に、令和6年度には、校内調査において前期よりも後期の数値がさがるという課題があげられていたが、令和7年度においてはその傾向が薄れ、さがっていてもさげ幅は低い傾向となった。これは、指導が継続して行われていることのあらわれであると言える。これらのことから、令和7年度運営に関する計画の最終評価で、今後も取り組みを継続することの大切さが確認されている。

今年度からは、大阪市教育振興基本計画が改訂されている。これまでと大きく変わるものではないが、今日的な大阪市の課題である、いじめ問題や不登校問題などの改善に向けた指針が挙げられている。

本校においても、大阪市の課題と向き合いながら、本校の子どもたちの課題解決に向けて取り組んでいかなければならない。特に、本校の課題としてあげられている自己肯定感・自己有用感の育成は、継続して進めていく必要がある。さらなる向上をめざし、今年度は地域の人たちと関わる取り組みを構築していきたいと考えている。特に、2～4年生において、高齢の方たちとの触れ合いから喜んでもらえる体験を積み重ねる中で、自己肯定感・自己有用感の向上を図っていきたい。さらには、子どもたちに夢や目標をもたせられるような取り組みも構築していきたいと考える。昨年度末、6年生で実施できた沢井製菓の出前授業のように、ホンモノに触れる機会をもたせたり体験させたりすることで、子どもたちの夢や目標のきっかけづくりを進めたい。そのためにも、区や市の出前授業などを取り入れ、体験的な学習活動を進めていきたいと考える。

学力面や体力面についても、一定の成果はあらわれているものの、さらなる向上を進めていかなければならない。

これまで取り組んできたことを深化・進化・充実させ、北中島小学校の子どもたちをしっかりととらえていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、令和11年度には87.0%以上にする。

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、令和11年度には88.0%以上にする。

○小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、令和11年度には90.0%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、令和11年度には85.0%以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、令和11年度には90.0%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を、令和11年度には80.0%以上にする。

○教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。

○学校保護者アンケート「学校は家庭・地域との連携を密にしている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を、令和11年度には90.0%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82.4%以上にする。（令和7年度 82.3%）
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.4%以上にする。（令和7年度 81.3%）
- 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。（新規項目）

学校独自の目標

- ・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より増加させる。（令和7年度 96.0%）
- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。（令和7年度 98.2%）
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（令和7年度 2.94%）
 - ※ 不登校児童の在籍比率・・・不登校児童数が、全校児童のうちの何割を占めているかを表した数。（不登校児童数）÷（全校児童数）で算出。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。（令和7年度 57.1%）
 - ※ 前年度不登校児童の改善の割合・・・前年度不登校児童をもとにして、何割が改善したかを表した数。
（（前年度不登校児童数）－（不登校児童数））÷（前年度不登校児童数）で算出。
Ex. 20人→6人 $(20-6) \div 20 = 0.7 \rightarrow 70\%$
↑ 改善した人数

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.8%以上にする。（令和7年度 80.7%）
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.1%以上にする（令和7年度 86.0%）

学校独自の目標

- ・ 小学校学力経年調査国語科において、大阪市平均の7割に満たない児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。（令和7年度 3年生 14.3% 4年生 19.4% 5年生 12.3%）
- ・ 小学校学力経年調査算数科において、大阪市平均の7割に満たない児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。（令和7年度 3年生 17.5% 4年生 21.3% 5年生 17.9%）

- ・小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を前年度より減少させる。（令和7年度 29.3%）
- ・校内調査において、11時以降に寝ている児童や8時以降に起床している児童の割合を前年度より減少させる。（令和7年度 11時以降就寝 21.5%、8時以降起床 10%）

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を70.0%以上にする。（令和7年度 67.5%）
- 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。（新規項目）

学校独自の目標

- ・令和8年度末の学校保護者アンケート「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を前年度より増加させる。（令和7年度 87.2%）
- ・令和8年度末の学校保護者アンケート「学校は教室や廊下など、子どもたちが学ぶ環境を整えている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を前年度より増加させる。（令和7年度 89.4%）

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立北中島小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82.4%以上にする。 (令和7年度 82.3%) ● 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.4%以上にする。 (令和7年度 81.3%) ● 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(新規項目) <p>学校独自の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より増加させる。(令和7年度 96.0%) ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。(令和7年度 98.2%) ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(令和7年度 2.94%) <p>※ 不登校児童の在籍比率・・・不登校児童数が、全校児童のうちの何割を占めているかを表した数。(不登校児童数) ÷ (全校児童数) で算出。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(令和7年度 57.1%) <p>※ 前年度不登校児童の改善の割合・・・前年度不登校児童をもとにして、何割が改善したかを表した数。 (前年度不登校児童数) - (不登校児童数) ÷ (前年度不登校児童数) で算出。 Ex. 20人→6人 (20-6) ÷ 20=0.7→70% ↑改善した人数</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「いのちについて考える日」の取組や「いじめについて考える日」、アンケート等の実態把握、自己有用感を高め自他の尊厳を認め合う学習活動を通して、いじめを許さない集団づくりに努める。(1-1)</p> <p>指標 「いじめについて考える日」の取組を年1回、「いのちについて考える日」の取組を月1回、いじめアンケートを年3回実施する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>全クラス、年に1回は自主教材「きこうよ はなし」を扱った授業に取り組む。ま</p>	

<p>た、自他の尊厳を認め合う学習活動を通して、学校生活全体での指導により、児童の自己有用感を育てる。(2-1)</p>	
<p>指標 校内調査で「人が困っているときは進んでたすけている」と答える児童の割合を80%以上にする。 (令和7年度7月91.6% 1月91.6%)</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 芸術鑑賞会・音楽鑑賞・民族芸能等の鑑賞及び音楽教育・体験活動の充実を通して情操教育を推進する。(2-1)</p>	
<p>指標 音楽科や図画工作科、学校生活等で、年1回芸術を鑑賞する機会を持ち、家庭内での情操教育のきっかけとする。体験的な活動を充実させるための支援を行う。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 児童との対話、「心の天気」、スクリーニング会議、スクールカウンセラー等を活用し、子どもの実情に応じた丁寧な対応と情報共有を行い、不登校の早期対応・解消に努める。(1-2)</p>	
<p>指標 児童の状況に関する情報共有や不登校の未然防止や早期対応・解消に向けた教員間の情報交換を月1回実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 特別支援学級担任を中心とする全教職員による共通理解、支援を実践する。(2-4)</p>	
<p>指標 特別支援研修会を前後期に1回ずつ実施する。また、学年打合せに参加し、さらに必要な時には随時情報交換し、連携を深める。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

(様式2)

大阪市立北中島小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">● 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.8%以上にする。 (令和7年度 80.7%)● 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.1%以上にする。 (令和7年度 86.0%) <p>学校独自の目標</p> <ul style="list-style-type: none">・ 小学校学力経年調査国語科において、大阪市平均の7割に満たない児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 (令和7年度 3年生14.3% 4年生19.4% 5年生12.3%)・ 小学校学力経年調査算数科において、大阪市平均の7割に満たない児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 (令和7年度 3年生17.5% 4年生21.3% 5年生17.9%)・ 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を前年度より減少させる。 (令和7年度 29.3%)・ 校内調査において、11時以降に寝ている児童や8時以降に起床している児童の割合を前年度より減少させる。 (令和7年度 11時以降就寝21.5%、8時以降起床10%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 読書に親しむための環境を整え、児童の読書に対する意識を高める。(4-1)</p> <p>指標 校内調査(児童)「読書が好きですか」に肯定的回答をする児童の割合を75%以上にする。 (令和7年度7月81.0% 1月79.3%)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりして、互いの思いを認めあう子どもを育てる。(4-2)</p> <p>指標 全員授業(教員)とともに、研究授業を年間3回行う。学年ごとに指導主事や教育指導員から指導助言を受け、スキルアップを図る。</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能を着実に身に付けさせるとともに、家庭学習も含めた学習習慣の定着を図り、習熟度レベルの向上を目指す。 (4-1)</p> <p>指標 月1回の教材研究日を設定し教材や指導法、学年間での系統性について研修を深める。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体の使い方の工夫等、運動の楽しさを体感できる取り組みにより、進んで運動する姿勢を育て、体力・運動能力の向上に努める。(5-1)</p> <p>指標 校内調査(児童)で、「運動や体を動かす遊びが好きですか」に、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。(令和7年度7月89.4% 1月91.2%)</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 睡眠の強調週間を活用し、学級指導や、学校だより・保健だよりを通して睡眠の大切さを伝えるなどの啓発活動を行う。(5-2)</p> <p>指標 睡眠強調週間を年に2回設定する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立北中島小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標 (施策目標) を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 70.0%以上にする。 (令和 7 年度 67.5%) ● 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。 (新規項目) <p>学校独自の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 8 年度末の学校保護者アンケート「学校は家庭・地域との連携を密にとってている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を前年度より増加させる。 (令和 7 年度 87.2%) ・ 令和 8 年度末の学校保護者アンケート「学校は教室や廊下など、子どもたちが学ぶ環境を整えている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を前年度より増加させる。 (令和 7 年度 89.4%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルフォーメーション) の推進】</p> <p>学習者用端末を活用した朝学習・家庭学習・教科学習等において、個別最適な学びと協働的な学びの質の向上をめざす。(6-1)</p> <p>指標 朝学習・家庭学習・教科学習等において、8 割以上の児童が ICT 機器を活用する日数を週 3 日以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>長時間勤務の解消を通じ、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保する環境の実現をめざす。(7-1)</p> <p>指標 ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>地域の方々と触れ合うことで、豊かな人間性を育み、地域への貢献を通して自己有用感を養う。(9-1)</p> <p>指標 地域と連携した取組を各学年において年間 1 回以上実施する。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>教職員で校内各所を点検し改善していくことにより、よりよい教育環境の実現をめざす。(9-1)</p> <p>指標 安全点検を月 1 回実施し、校内の教育環境の整備・美化に努める。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点